

# IT 活用による授業づくりを普及させるための校内研修体制と効果

## Effect of Teacher Training Management in School to Spread IT Use Class

小川 雅弘

Masahiro OGAWA

浜松市立都田小学校

MIYAKODA Elementary School, Shizuoka

堀田 龍也

Tatsuya HORITA

静岡大学情報学部

Faculty of Informatics, SHIZUOKA Univ

IT 活用による授業づくりが校内研修の中心になっている学校に赴任した新任者が、IT 活用による授業づくりのイメージをどのように持っているかを、1年間追跡調査した。その結果、IT 活用の授業づくりを広めるためには、授業研究を中心とした校内研修と共に、校務の情報化を進め、教員がITに触れる機会を多くする事が有効であると示唆された。

<キーワード> : 校内研修, 授業づくり, IT 活用

### 1. 現状と問題点

教育の情報化が進み、各教室でのインターネット環境や学校でのPC環境は整備されてきた[1]。

教育の情報化に関する教員の研修は、機器操作の研修ではなく、授業研究を中心に行われるのが良いとされている[2]。

浜松市立都田小学校は、全学年単級で教員数は、管理職まで含め11名である。IT環境は、全学級にプロジェクタ・パソコン・デジタルカメラが各1台配備され、全教員に教材提示用ノートパソコンが用意されている。市内でもIT活用が盛んな学校と思われ、勤務する教員もIT活用に長けていると思われる。

しかし、毎年度3~4名の人事異動があり、必ずしもITに慣れている教員が勤務しているとはいえず、逆に機器操作に不安を強くもって赴任してくる場合が多い。そのような教員の多くは、パソコンとプロジェクタの接続方法や、ファイルの共有・画像処理・ブックマークの方法等を知らないなど、機器操作に不慣れな場合が多い。

教育の情報化が推進され環境の整備が進む中、全ての教員がITを活用し授業を行えるようにする事は重要であると考えた。

### 2. 目的

IT の操作に不安を持っている教員が、IT 活用による授業づくり研修や校務の情報化による校務処理の経験によって、IT 活用による授業づくりのイメージを持つことができるようになったかを調査分析する。

### 3. 方法

教員の不安を小さくし、IT 活用による授業づくり

ができるようにするためには、IT を利用する事を必要条件とした授業研究を進めると共に、教員自身がITに触れる機会を多くする事が効果的なのではないかと考えた。

研究に当たって、会議議事や週報・連絡事項を校内ネットワーク上に置き、触れないと校務処理ができない仕組みを用意し、IT 環境が整備された学校に新たに赴任した3名の教諭を調査対象とした。

対象者のIT活用による授業づくりのイメージを調査するため、以下の方法を用いた。

- (1) 年間3回のアンケート調査(年度当初・最初の授業研究の時・年度末)を行い分析した。
- (2) 自宅のIT環境とこれまでのIT活用経験についてアンケート調査を行い分析した。
- (3) 年間2回の授業研究後の反省会記録を分析した。
- (4) 上記分析項目から、対象者が、IT活用による授業づくりのイメージを持てるようになったかを考察した。

### 4. 結果

アンケートの調査や授業研究後の反省会記録、ITに関する実態から調査分析し、次のような結果が得られた。

#### (1) A 教諭

##### ①アンケートから

当初は、IT=操作と言うイメージが強く、使う事自体に抵抗感を持っていたが、次第に授業の中で使うイメージを持てるようになった。

##### ②授業の事後研から

音楽の授業では、機械的な音に抵抗を感じていた

が、国語の授業後には、もっと学習を深められるコンテンツがあれば利用したいという感想を持った。

### ③IT活用実態

デジタルカメラ・プロジェクタ・実物投影機・デジタルビデオカメラ・パソコン・CDプレイヤー・テレビ会議システムなど多様なIT活用を経験していた。

#### (2) B 教諭

##### ①アンケートから

当初は、機器を使う事自体に不安があったが、次第にITを使うか使わないかで学習意欲や理解度に違いが出てくるという感想を持ち、事前準備の必要感を持つようになった。

##### ②授業の事後研から

図工の授業では、授業での意図と利用したコンテンツが結び付いていないという指摘を受けたが、理科の授業では、調べさせたい事を考えて提示されていて良かったという感想をえていた。

### ③IT活用実態

デジタルカメラ・プロジェクタ・実物投影機・デジタルビデオカメラ・パソコン・CDプレイヤー・学校放送番組など多様なIT活用を経験していた。

#### (3) C 教諭

##### ①アンケートから

当初は、機器操作に不安を持ち、IT活用による授業とは、パソコンでスライドを使って行う授業というイメージを持っていた。年度末にも、十分に慣れていないため、使いきれなかったという反省を述べていた。

##### ②授業の事後研から

算数の授業では、コンテンツの提示が、何のための提示なのか不明確であるとの指摘を受けた。国語の授業では、文章の確認に使うよりも、情景をイメージできるように利用した方が良かったとの指摘を受けた。

### ③IT活用実態

デジタルカメラで撮影させた画像へ、絵や文字を書き込ませた経験しかなかった。

3名の自宅での接続環境の有無と、年間授業日数200日の中での連絡・打ち合わせ事項の書き込み件数は、表の通りであった。

	自宅での接続環境	書き込み件数
A教諭	あり	33
B教諭	あり	85
C教諭	なし	2

表 3名の自宅環境と書き込み件数

## 5. 考察

以上の結果から、次のような事が考えられる。

A・B 教諭とも、アンケート調査や反省会記録から、当初はITの利用と言うと、機器の操作と言うイメージが強く、操作できるであろうかと言う不安が強かったが、年度末には、ITを利用した授業づくりのイメージができるようになったのではないかと考えられる。しかし、C 教諭は、1年を終えても機器操作に対する不安が強く、授業づくりのイメージが十分にできていない可能性が高い。

3名とも同様に授業研究を行い、事後の検討会も行ってきた。C 教諭がITを利用した授業づくりのイメージが十分にできるようにならなかった原因として、授業経験年数差の影響も考えられるが、年度末にも機器操作の不安に関する感想を述べている事から、ITの利用経験の差が影響しているのではないかと示唆される。

C 教諭は、自宅に接続環境が無く、書き込み件数も極端に少なかった。このことは、IT活用による授業づくりのイメージができない教員を、イメージできるようにしていくには、IT活用による授業研究を中心に研修を進めると共に、校務の情報化を進め、教員が日常的にITを利用しなければならない仕組みを構築する事が効果的ではないかと判断できる。

## 6. 結論

本研究では、IT活用による授業づくりが校内研修の中心になっている学校に赴任した新任者が、IT活用による授業づくりのイメージをどのように持っているかを、1年間追跡調査した。その結果、IT活用の授業づくりを広めるためには、授業研究を中心とした校内研修と共に、校務の情報化を進め、教員がITに触れる機会を多くする事が有効であると示唆できた。

### 参考文献

- [1]教育情報化推進協議会 (<http://www.eeaj.jp/>)
- [2]文部科学省 - 「新情報教育に関する手引き」 - ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/020706f.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706f.pdf)) "